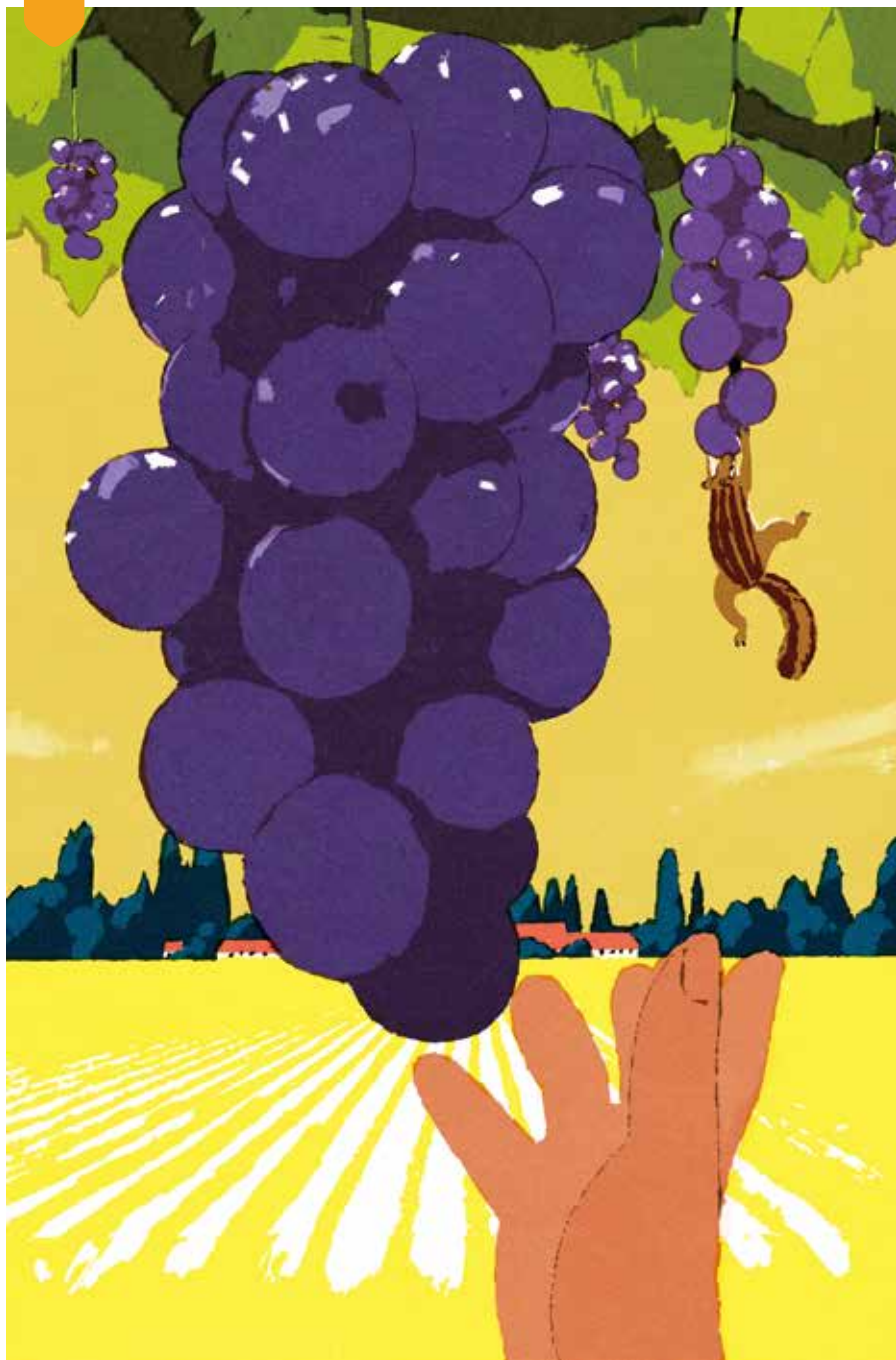


国語教育相談室

107

小学校



特集

“国語の妖精”コッシーが解説！
「思考ツール」を活用した思考の可視化で、深い学びを

■わたしとことば
「物語」を「物語る」
はやみねかおる

■書写
タブレットの学びを
手書き文字へ

「物語」を「物語る」

どうも、はやみねかおるです。児童向け推理小説を書くことを生業にしていますが、四半世紀ほど前は小学校の先生をしていました。

ぼくは、最近まで「物語る」という言葉の存在を知りませんでした。この「物語る」という言葉について、少し書かせてください。

☆

大学時代、教育学部に通っていました。三年生になり、教育実習に行くまでは、学校の先生になる気はありませんでした。在学中に小説の賞を取り、作家デビューする——これが当時の目標でした。

それが、教育実習に行って「学校の先生って、すごい仕事だな……」と思うようになりました。それから卒業までの間は、小説を書いて賞に送ることと、教師になるための勉強を頑張ることの二本立ての生活でした。

小説の方は落選続きでしたが、教職の方は採用試験も受かり、単位ギリギリのギリとはいえ卒業の目処も付き、赴任先も決まりました。

そして、卒業式の二日後——最後の短編小説を書いて、

「学校の先生は、小説を書きながらできるような仕事じゃない。二度と、小説は書かない」と、創作活動を封印しました。

☆

その後、なんやかんやいろいろあり、児童文学の新人賞を取ってしまい作家デビュー。いつの間にか専業作家になっていました。

☆

先日、新聞の取材を受けました。インタビュの中で、教室にいる子どもたちに物語を話すことから、封印していた創作活動を再開してしまったことを話しました。

そのときに書いていただいた記事の抜粋です。

「落選したから物書きとしての自分のレベルはわかったし、先生をしながら小説を書けるとは思わなかったので」

だが、「物語る」ことはやめられなかった。

☆

そう、ぼくは「物語る」ことをやめられなかったのです。教室で子どもたち相手に物語を語っていた——これが、自分の原点なんだと還暦になって気づきました。

引退まで残り三十二年。どれだけ書けるかわかりませんが、原点の「物語る」ことを忘れず書き続けたいと思います。



1964年、三重県生まれ。

令和6年度版光村図書『国語』4年下巻に「友情のかべ新聞」を書きおろし。児童向け推理小説を中心に多くの作品を発表しており、主な著書に『そして五人がいなくなる』『怪盗クイーンはサーカスがお好き』『都会のトム&ソーヤ①』（いずれも講談社）などがある。



表紙イラスト 飯田研人

CONTENTS

02

特集

■わたしとことば
「物語」を「物語る」 ●はやみねかおる

「国語の妖精」コッシーが解説！

「思考ツール」を活用した
思考の可視化で、深い学びを

●解説・監修／興水かおり 漫画／あべかよこ

思考ツールを活用した授業実践

今回はどの図を使って考えようかな？ ●伊藤正枝

10

書写

タブレットの学びを手書き文字へ

ICTを積極的、効果的に活用した

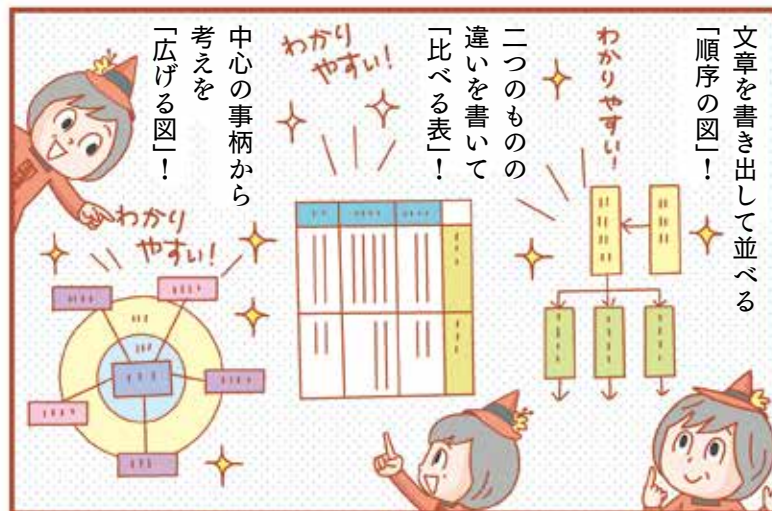
書写・文字の学習 ●佐々木雅哉

「思考ツール」を活用した 思考の可視化で、深い学びを

「一つの正解を導き出すのが困難な問い」が山積している今、「考えること」「感じること」「創り出すこと」の力を育成する重要性がこれまで以上に求められています。あふれる情報に溺れることなく、それらを整理し関係づけて自分の考えを構築していく資質・能力の育成は急務でしょう。「自分の目的に応じて必要な情報を収集、整理し再構築する力」をつけるためには、思考の可視化が不可欠です。心の中で思っていること、頭の中で考えていることを言葉にしてみる、それがどのように繋がっているのか、関係を目に見える形で図や表に整理する力を育成することが必要です。

現行学習指導要領（平成二十九年告示）には、【知識及び技能】（2）に「情報の扱い方に関する事項」が新設されました。内容そのものは、従来の国語科各領域の指導事項に重なるものがほとんどですが、ますます加速化する情報社会への対応を意識した重要な改訂内容であると考えます。

今回は、「思考ツール」を活用した「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりについて考えてみたいと思います。



解説・監修／興水かおり

広島県生まれ。元玉川大学客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長、玉川大学客員教授等を務める。光村図書小学校『国語』編集委員。

漫画／あべかよこ





わかりやすく筋道の通った表現をすることは、なかなか難しいものです。学習指導要領【知識及び技能】(2) 情報の扱い方に関する事項では、低学年に「共通・相違・事柄の順序」、中学年には「理由や事例」「全体と中心」、高学年で「原因と結果」といったキーワードが示され、指導のポイントになっています。

「順序」は、低学年から国語科の各領域で指導しますが、どんな順序で表現すれば相手によく伝わるか、時間の順序や事柄の順序に沿って並べ替えてみる試行錯誤が大切。そんなとき、二年生以上の巻末

折り込み付録「図を使って考えよう」の活用がおすすめです。上下巻それぞれに具体的な活用方法が示されています。もちろん、子どもたちにこのページを示し、いつでも使える便利なツールだという認識をもたせることも忘れずに。こうしたツールを思考整理に使う機会を意図的に作ることも大切です。

付録以外にも、ICT機器の活用、着脱可能な付箋やカードの使用など、子ども同士がお互いに言語化・可視化した内容を交流・共有して、自分の考えを見直すチャンスを提供し、「深い学び」を実感させましょう。



並べてみると順序が見える



「整理」の基本は、「分けること」です。机上整理したつもりでもいつの間にか元の状態に戻ってしまうという経験、皆さんにもありますよね。ましてや、子どもにとって情報整理、「分けること」のハードルは高いものです。まずは、入れ物(所定の場所)を指定し、そこに大まかに収納するところからスタートさせてみましょう。その際、入れ物に名前(見出し)を付けておくことが大切です。どこにも入らないものは「その他」として保留し、あとでゆつくり検討する。次に、目的を明確にして、必要な情報かどうか取捨選択していきます。目的が曖昧になら

ないように、見出しを付けること、必要に応じて情報のランク付け(色や記号など)をしておくことも重要なポイントです。インターネット等を使うと、大量の情報が集まります。大切なのは、何のために集めているのかという目的意識です。

伝えたいことをたくさん集めて、整理整頓。一定の順序で再構築して表現するという力は、他の教科の学習場面でも大いに活用できます。もちろん、日常生活でも(大人になっても!)

情報の山の中から、自分にとって必要な逸品を見つける力を育てましょう。



情報を整理しよう

今回はどの図を使って 考えようかな？

武蔵野市立第五小学校 伊藤正枝

「今回はどの図を使って考えようかな？」
——学習中に聞こえてくる、本学級の児童のつぶやきです。国語科での学習ではもちろんのこと、他教科においてもさまざまな思考ツールを活用している場面が多く見られます。

指導をするにあたって、いちばん大切にしていることは、「使つてよかった！便利だ！」と実感させることです。実際に活用した経験がある思考ツールは教室内にも掲示し、「今日はあの図を使おうかな」と見返すことも多くあります。思考ツールが必要となきに選択して使う「引き出し」になることを目指して指導しました。

授業実践の紹介

①「食べ物ひみつを教えます」(三年)

「すがたをかえる大豆」を学習したこと

した。教科書や学習指導書に記載されている四つの図を参考にして、児童と一緒に「整理のしかた」「図」「つなげる言葉」について話し合いました。図を頼りにつなげる言葉を考えることで、伝えたいことが明確になりました。

児童の学習の振り返りには、「図を見れば、伝えたいことが言葉で表しやすい」「この図はこれからも見て使いたい」とありました。学級で相談し、思考ツールコーナーの横に掲示し、今後も活用することになりました。

③「大造じいさんとガン」(五年)

「大造じいさんとガン」を一読したあと、一人一人が読み取ったことや自分の考えを整理したシートを書きました。文章の全体を構造的に捉えたり、教材の読みを可視化したするための「読解地図」です。単元学習の冒頭に書くことで、学習の見通しを立てることに役立てました。単元を通して加筆修正しながら活用しました。

本学級において読解地図を作成することが初めてだったため、教師が読解地図のモデルを作成して提示しました。四年生で学習した「ごんぎつね」を題材にし、児童がイメージをもって取り組むことができるよ

を生かし、自分の興味をもった食べ物について説明する文章を書く単元での実践例です。大豆のようにすがたをかえる材料を選び、自分の考えを整理する際に活用しました。同心円チャートの中心に、材料の「米」を書き、二段階に広げて「おいしく食べる工夫」と「食品」を書きまとめています。線でつなぐことによって、どの事柄と結び



うにするためです。読解地図を書き込むワークシートは三種類用意しました。白紙、六分割、場面書き入れた六分割の中から選択させたところ、九割以上の児童が白紙を選択しました。「大造じいさんとガン」を教師が朗読した後、各自文章を読み返しながら、物語の中心となるキーワードを中心に整理していきました。さらに、場面や時間の流れ、中心人物どうしの関係、挿絵、作者に関する情報など、自分が着目した視点をもとに加筆していきます。

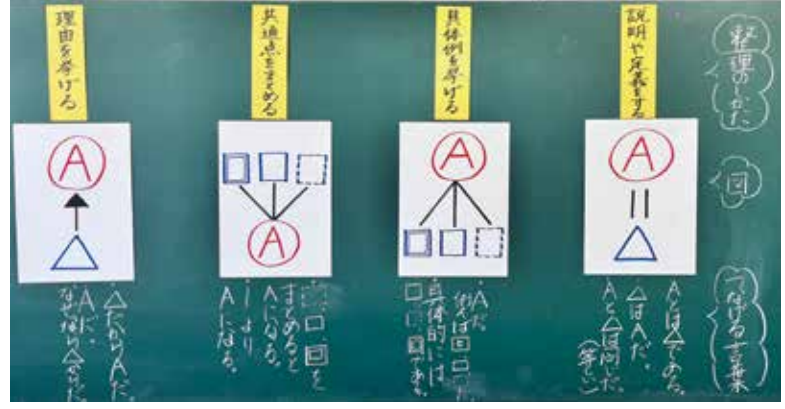
下の二枚の読解地図からもわかるように、児童によって、さまざまな整理のしかたがあり、工夫してまとめていることが見て取れます。互いの書いた読解地図をもとに学習計画について話し合うと、「どうしてここに着目したの？」「同じ物語を読んだのに、気づきや感じ方はちがう」「友達が心に残った場面を聞いてみたい」と、互いの読みを比較する様子も多く見られました。

自分で書いた読解地図をじっくり眺めながら、「こんなふうに自分の考えを書くって、楽しい！またやってみたいな。」とつぶやく児童の姿が印象的でした。学びの足跡がたくさん詰まった「世界に一つだけの読解地図」は、児童にとって大切なものになったようです。

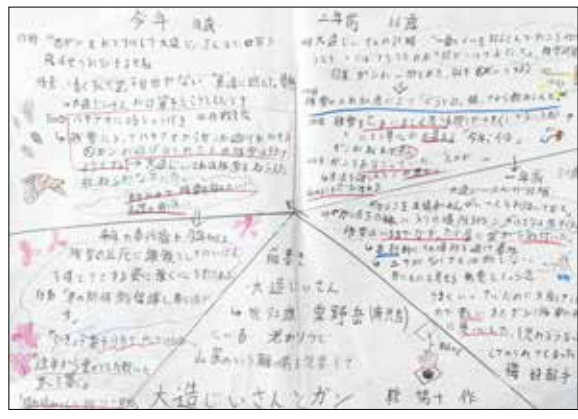
付けているのか、一目でわかりやすいのが特長です。

②「情報と情報をつなげて伝えるとき」(六年)

調べた情報をわかりやすく伝えるために、情報と情報をどのような関係で整理するとよいかを考える際に、図を使ってまとめ



児童Aの読解地図



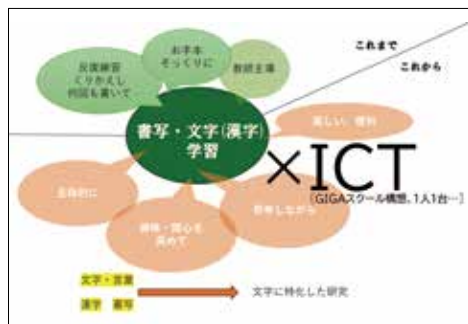
児童Bの読解地図

ICTを積極的、効果的に活用した書写・文字の学習

北海道文教大学教授 佐々木雅哉

国語科のなかの「書写」

国語科の学習は、主体的・対話的で深い学びに向かう上で、そのベースとなるものです。そのなかに、書写・文字（漢字）の



学習が含まれています。言葉を構成する文字（漢字）を正しく書き、使えるようにすることは落とせない指導事項であります。しかし、その基盤となる国語科のなかの書写や文字の学習は、ややもすると軽く扱われたり後回しにされたりして、形式的な指導にとどまってしまっている例が散見されます。国語のみならず教育活動の屋台骨となるべき書写や文字の学習が漫然と指導されるのを目の当たりにし、「これはもったいない」と感じたのでありました。

そこで、書写や文字の学習を少しでも「楽しく魅力的で、子どもも先生も積極的に取り組みたくなる」ものに変革させようと、学校全体で枠にとらわれない発想で取り組んでみました。私が札幌市立星置東小学校に在籍していた二年間の歩みを紹介します。

■目的は二つ

- ①どうしても「教師主導に陥りがち」な書写や文字の学習を、ICTを積極的に活用して児童どうしが説明したり対話したりする中から課題を解決していけるような「思考する文字の学習」を目指す。
- ②書写力を高めることで、国語科における資質能力の底上げを目指す。

一年目

文字・漢字・書写を研究領域として

■アプリ「ねこかんぺきくん」の開発
運筆を意識させるためには「音」が効果的です。そこで、書写教科書に登場する「ねこ」に「はねねこ」、「とめねこ」、「はらいねこ」などと名前を付け、「しゅっ」、「び

たっ」など声に出しながら操作させました。

【学習の流れ】（★＝ICTの活用・思考場面）

文字 しよしゃーねん

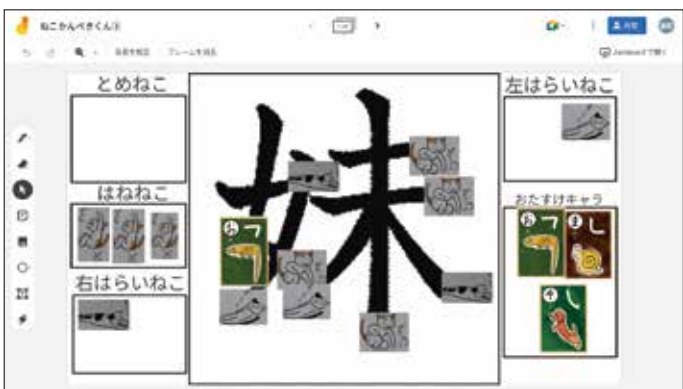
ひらがなのかきかた／「とめ」と「はらい」と「はね」

①学習する文字を提示する。

★教材文字「か」を児童の端末と電子黒板に提示。



実際に使っている動画はこちら



▲「ねこかんぺきくん」画面イメージ

漢字 こくへ二年上
かん字のひろば3／1年生でならったかん字

①②は、一年と同じ活動内容で展開。

③オクリンク（※）でねこばなし

★個々の活動を一覧で見ながら、とめ、はね、はらいなどの運筆をねこの名前で話し合う。「はねねこ、へんな方向にとんでるよ」、「とめねこなのにな〜い〜てゐる」などと、となりどうしやグループで。

書写 書写六年

漢字の組み立て／部分の組み立て方

①試書する。

・自らの文字の実態を露わにするために、教科書を見ないで毛筆で「街角」を書く。書いたものを端末で撮影。（端末は机の中に常備させておく。）

②考える。

★教科書の文字と比べて、課題となるとき



ろを見つけて、端末に書き込み。

★オクリンクで一覧にし、困り感や課題を共有。同じ課題をもった児童どうしで解決策を話し合いながら練習に進む。

③確認しながら課題解決へ。

・書きながら、解決に向けて取り組む。教科書のQRコード動画も活用。

④硬筆に生かす。

・教科書巻末の「漢字一覧」などを利用し、部分の組み立て（この授業では三つの部分）の学習が生かせる漢字を探して練習する。「衛」「測」「郷」「縦」など。

■二年目に向けて

「文字・漢字・書写」に研究領域を特化したことで、子どもの文字を書くことへの関心と教師の研究意欲が相乗的に高まったと感じます。文字の学習においてICTの活用場面を精選していくことで、子どもたちが主体的に思考し、学ぶことができる、との確信を得ました。これまでの実践の記



札幌市内の公立小学校の教諭、校長を経て現職。光村図書小学校『書写』編集委員。専門は、国語教育、書写書道教育、ことば・文字教育。地域FM局番組パーソナリティも務めている。

録からICTを活用した場面と思考場面を抽出してみたところ、多くの活動で重なり合っていることがわかったからです。

二年目はこの成果を生かし、「文字」「漢字」「書写」の三つの領域を「文字の原理」領域として一つに集約することになりました。これにより、文字（漢字）学習と書写の「類似している指導事項」に光を当てることができ、これまで以上に多くの場面面で、効果的で効果的な学習を考えていくことができそう、との期待が膨らみました。

二年目 文字の原理 領域の実践

■机上の見直し

書写でも端末を活用したい。しかし用具を広げてしまうと、どうしても机上が窮屈。特に、毛筆学習では手狭となるし、墨汁や水書きの水分の、電子機器への影響も気になる……八方探し、児童機の奥行きを大きくできる「天板拡張くん」なるものを発見、導入してみました。これまでは、空き教室の児童用いすを運び込んで机の隣に置き、その上に端末を載せていました。学習のたびに運ぶのは一苦労でしたが、拡張くんは子どもでも簡単に運搬、設置できることか



▲「天板拡張くん」を使って机上を使いやすく

ら好評を博しました。

拡張幅は10cmですが、そこに余裕をもって端末を置くことができることから、教科書やワークシートをゆったり広げることができたり、腕を動かせる範囲や視界が広くなったたりするなど、端末操作のしやすさだけでなく、筆記具の持ち方や正しい姿勢の保持にも効果が波及し、とても有効でした。

■ICTで思考を促す「ふたつ」にたわって

端末を使い始める一年生は、とかく操作に熱中しがちで、教師からの指示が通らなくなる場合があります。また、学習活動での「書く」場面で、端末の使用が過多になると、文字を「打つ」ことには慣れるものの、手で「書く」ことには疎くなるおそれもあります。効果的な活用を目ざしている

中で、「端末を無理矢理使う」のではなく、学習の目標や身につけさせたい力を明確にして使用場面を整理しました。

書写の学習過程においては、文字を観察したり、文字を書くためのきまりや規則性を見つけ出したりする活動が組まれますが、それはまさに「思考」を促す活動です。ここにICTの良さを加えて思考活動に刺激を与え、思考力の土台を作っていくことにこだわりました。

【学習の流れ】（★＝ICTの活用・思考場面）

文字の原理 こくご二年下

かん字のはなし

- ① かんじクイズにチャレンジ
ろうそくの🔥をけす(例)

★QR動画「かん字ができるまで」を視聴。
★オクリンクで出題し合う。答えを返信し、○をつけてあげてまた返信。

★検索アプリで字源を調べながら、さらに出題。調べ方は指導が必要。

- ② 「ねこかんぺきくん」を使って、筆順や気をつけて書くところを考える。

★「ねこかんぺきくん」を操作、活用して文字のきまりを発見する。

★電子黒板に子どもの操作例を提示し、友達の考え方をとらえる。（教室正面の大

画面と同じ画を個人の端末にも送出すると、後席の子もよく見える。）

- ③ 画面に指で漢字を書く。

★学んだことを生かして。専用ペンでも。

- ④ 鉛筆でワークシートに書く。

文字の原理 書写四年

漢字どうしの大きさ「白馬」

- ① 前時のふりかえり

・「バランス」をキーワードに発見した。

★個人ドライブの中に、これまでの学習の成果を撮りためて保存しておく。

- ② 硬筆で「白馬」を試書、教材文字と比較。
・硬筆で書くことで、本時は「何について」のバランスを発見するのを推察していく。二文字の大きさの違いに気づく。

- ③ 毛筆で「白馬」を試書、教材文字と比較。
・気づいたこととおりにはうまく書けないことを実感し、どう書けばよいかを考えていく。（課題を見つめる。）

④ 書きながら、課題を解決していく。
★教材文字と自分の書いたものを画面上に並べて比較する。

★共有ドライブに、気づきを促す動画を用意しておく。

★教科書のQR動画を活用していく。
（課題の解決場面で、いつでも動画を視

聴できる場を設定する。確認や改善が何度でもできるようにしておく。）

- ⑤ 成果を共有する。

★実物投影機などにより実物を示しながら、言語で共有する。

・自分自身で気づけなかった「よりよく書くコツ」に気づく機会を保障した。

- ⑥ 毛筆の学習を生かして、硬筆で「白馬」を書く。「白馬」以外の熟語を選んで書く。
・獲得した原理・原則を他の文字に活用することで、日常に生かす意欲になる。

文字の原理 特別支援学級

かたかな あつまれ

・一年の最後に、家族に「キラキラお手紙」を出そうと張り切っている。そのため、「キラキラ文字にしなければ」という意欲が高まっている。

- ① 既習を想起する。

・かたかなの「形クイズ」

「パ」はよこなが

「シ」はましかく

- ② パズルクイズに挑戦

★スクールタクト(※2)で文字のパーツを組み合わせる。
・とめ、はね、はらいに気をつけた「キラ



まとめ

「キラ文字」が完成できるようにする。

- ③ 学んだことを生かし、ワークシートで練習する。

「思考する文字の学習」は、ICTを効果的に使うことによって実現できそうなことがわかりました。国語や書写で、むやみやたらに「端末を使う」のでは、手で文字を書く機会を奪うことになりかねません。

これまでの指導がICTに取って代わるということではなく、これまでの指導にICTを＋αとして加える使い方をしていくべきだと思います。「分度器は角度を測るときに使う、コンパスは円を描く道具。では、ICTは？」——私たちはこの程度の発想から始めました。今後の書写や文字の学習では、端末等の活用場面の精査とともに、ICTを使って思考したことを「手で書く文字」に反映させていく誘いが必要になってきます。「タブレットの学びを手書き文字へ」といったところでしょうか。

今後も、端末に限らずさまざまなICT機器の特徴を最大限に活用して、楽しくてわくわくするような「これからの書写・文字の学習」を考えていきたいと思っています。

※2 株式会社コードタクトが提供する授業支援クラウドシステム。ブラウザ上で協働学習を行うことができる。

令和7年度「言語教育振興財団」研究助成金 一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、令和7年度も小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象として、今日の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、実践と理論について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成を行います。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	令和7年4月～令和8年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、外国語、日本語、総合等）に関して研究開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）、上記に準ずると見なされる団体及び個人
助成件数及び金額	助成件数は70件程度 助成金額は1件につき原則として、 学校・団体20万～35万円、個人15万～25万円
問い合わせ先	一般財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL&FAX 03-3493-7340 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp

※応募方法などの詳細につきましては、
財団のウェブサイト (<https://gengo-k.jp/>) をご覧ください。



光村図書
ウェブサイト

光村図書

検索



小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ



光村図書 LINE
公式アカウント
友だち募集中！



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C020246

小学校 国語教育相談室 107号 2024年11月7日発行

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
印刷所 協和オフセット印刷株式会社
デザイン mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」
にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

【教育情報誌に関するお問い合わせ先】
住所変更・配送停止: ej1@mitsumura-tosho.co.jp
ご意見・ご感想: koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書